

第6学年 道徳学習指導案

太田小学校6年 男子8名 女子4名 計12名

授業者 中西初美

1 総合単元名 命 輝け！

2 総合単元設定の理由

最高学年となった12人の子どもたちは、自分の言葉や行動が学校全体をリードしていることを自覚し、また人の役に立つ喜びとそれゆえの責任を味わってきた。幼さが少しずつ消え、代わりにたくましさを感じさせる顔つきに変わり、頼りにできる存在に成長してきたことをうれしく感じている。

しかし、いつもそのように行動しているわけではなく、自分勝手な理由から友達に厳しい言葉をあびせたり、陰日向のある行動をとったりとまだまだ不安定なところがみられ、教師の支えが必要なこともある。それは、自分も他人も大切にしようとする心、つまり自他の生命を大切にしようという心が、まだ十分子どもたちの中に育っていないからだと感じてきた。

このような状態の子どもたちに、この単元を通して「生命はかけがえのないもの・連綿と受け継がれてきた尊いもの」「精いっぱい生きることが生命を尊重すること」に気付かせたい。そして、それが自分たちの生き方や考え方を決定する際の要となるように、常に心の真ん中にとどめさせたい。お互いの喜びや悲しみ、苦しみを共有し、みんなの問題として考える態度を養い、様々なことがらに積極的にチャレンジし自らの可能性を広げていくことで、卒業までの月日を「命輝く」日々にしてほしいと願い本総合単元を設定した。

3 総合単元の目標

かけがえのない生命について見つめ直し、自他の生命を大切にしようとする態度を養う。

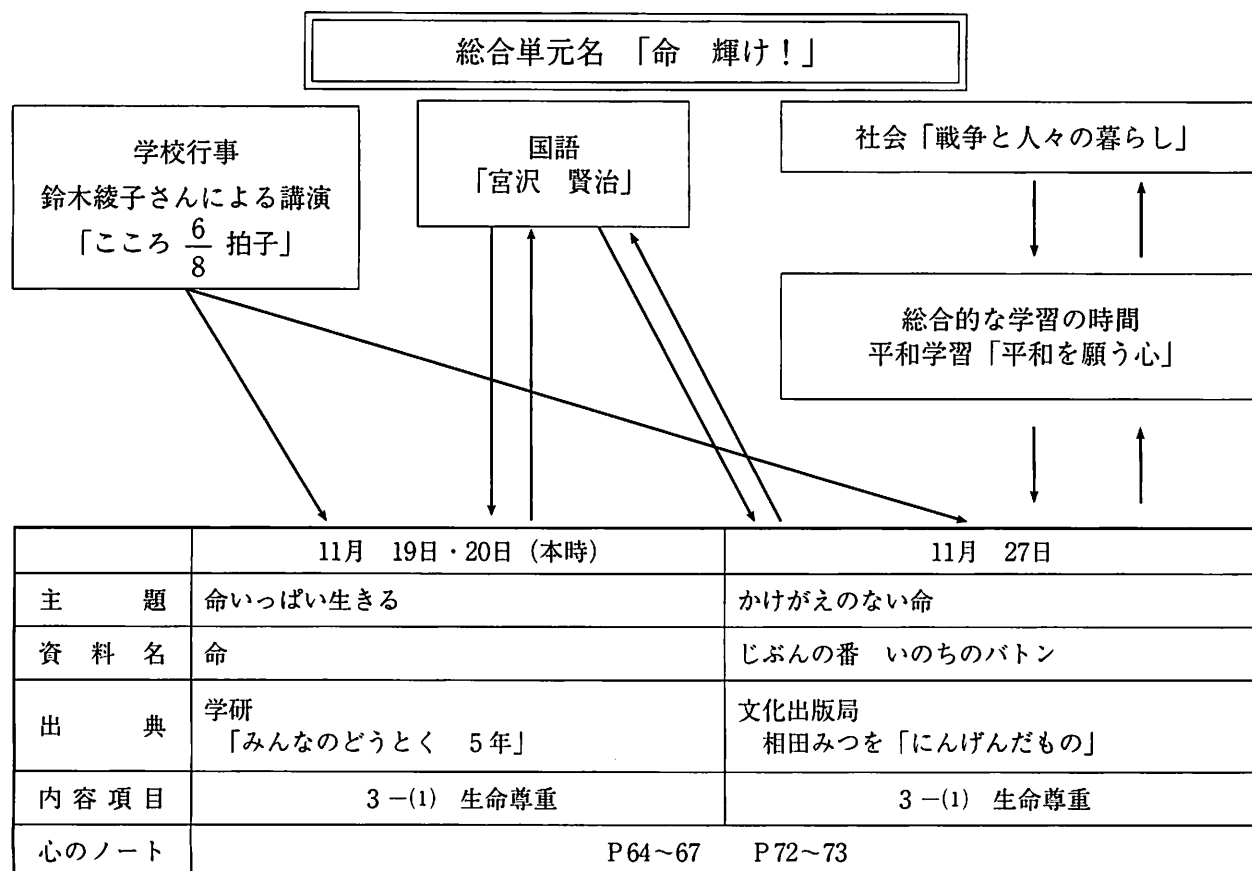
4 単元構成について

国語の「宮沢賢治」では、「雨ニモマケズ」の詩から自然を愛し、全ての生命を尊ぶ宮沢賢治の純粋な生き方を学び、人間もあらゆる生命のめぐみのうえに生かされていることに気付かせたい。社会の「戦争と人々の暮らし」では、戦争によって奪われたたくさんの命や人間として保障されるべき暮らしがでなかつたという事実を学習することから「戦争は絶対にしてはならない」「命を大切にしよう」という強い気持ちを育て、そして、さらに総合的な学習の時間「平和を願う心」へ発展させたい。深い悲しみや苦しみを乗り越え、平和への道を歩んできたこと、そしてさらに自分たちがそれを受け継ぎ、平和な世界をつくる担い手になろうとする態度を育てたい。

参観日の鈴木綾子さんによる講演は、親子で聴き、共に命について考える機会とする。息子さんが白血病という病気と闘いながらも、亡くなる直前までグラフィックデザインを制作し続けたという懸命な生き方の話に直にふれることで、「かけがえのない命だからこそ精いっぱい生きなければならない」というメッセージを心の深いところにしみこませたい。また、講演後、親子で命について考えたことや感想を話し合ってもらい、自分を見守り、大切に思ってくれている家族の気持ちにも気付かせたい。

道徳の時間の「命」では、限りあるかけがえのない生命だからこそ、精いっぱい生きたいという由貴

奈ちゃんの思いや、その言葉に感動した子どもたちがいじめをやめたという気持ちに共感させ、精いっぱい生きるということがどういうことか考え、その生き方を実践しようとする態度を養いたい。また「じぶんの番 いのちのバトン」の学習では、自分の命もまた多くの人々に支えられ、受け継いできたものと知り、その奇跡に驚き、感動すると考える。これらの学習を通して、たった一度の人生、命いっぱい輝くように生きていこうとする態度を養い、実践していこうとする意欲を育てたい。



〈常時活動〉

- ・読書活動 (朝の読書)
- ・心の扉を開けて話そう (朝の会)
- ・ニコニコなかよし班活動 (異学年集団活動での水やり・集会)
- ・ニコニコカード発表 (帰りの会で友達のがんばりを認め合う)
- ・読み聞かせ隊 (1年生に絵本の読み聞かせ)
- ・鼓笛の練習・清掃活動・係活動

5 本時の学習

(1) 主 題 名 命いっぱい生きる

(2) 主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

3-(1)	命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。
-------	---------------------------------

生命を尊重する心の育成は、道德教育の中でも一層大切に考えられてきている。それは、すべての道徳性は、生命が大切にされてはじめて成り立つものだからである。

子どもたち一人一人に生きているものは一つとして同じものではなくそれぞれがかけがえのないものであることや、他の生命を思いやり共に生きていることを自覚させることが必要である。さらに、力強く生き抜いていこうとする心を育てることが求められている。これらのことを通して生命あるものすべてに対する感謝の心や思いやりの心をはぐくみ、より深く自分を見つめ、人としての在り方や生き方の自覚を深め、実践しようとする態度を養いたい。

〈子どもの実態〉

学校生活では、6年生全員が、低学年の教室に行き、遊び相手になったり、本の読み聞かせをしたりと面倒をみている姿をよく見かけるようになった。相手の気持ちをくみ取り少々のわがままなリクエストにも上手にあわせながら優しく対応している姿は、ほほえましい光景である。最高学年として、下学年であっても尊重して大切にしようとする態度が育ってきたのだと感じている。

しかし、子どもたちは、まだ身勝手に残酷な一面ももっており、自分を抑えられずに乱暴な言葉を使うこともある。元気がよすぎて・・・では、すまされない、命を軽視する言動である。また、少人数で固定された人間関係の中では、長年の間に序列がつき、それに疑問をもつ気持ちもなくなりつつあるように思う。

そこで、自分自身の生活を見つめ直し、生命のかけがえのなさを自覚して、自他の生命を尊重し、生きている今を大切にしようとする態度を養い、行動する実践意欲を高めたい。

〈資料について〉

本資料は、こども病院の院内学級で勉強していた宮越由貴奈ちゃんの「命」という詩を紹介したものである。

5歳のときに病気がわかってから、5年半もの間病気とたたかいながらも、この詩を書いた4か月後に亡くなってしまった由貴奈ちゃん。「命が疲れたというまでせいいっぱい生きよう」という言葉から「死」を意識することで「命」を鮮明に認識することができる。

限りあるかけがえのない「命」だからこそ、精いっぱい生きたいという由貴奈ちゃんの思いや、その言葉に感動した子どもたちがいじめをやめたという気持ちに共感させ、精いっぱい生きるということがどういうことか考え、実践しようとする態度を養いたい。

資料名「命」 学研「みんなのどうとく 5年」 原典 宮本 雅史 作「『電池が切れるまで』の仲間たち」 角川文庫 角川書店刊 イラスト…… (株) レジア石倉ヒロユキ
--

(3) ね ら い

命がかけがえのないものであることを知り、自他の生命を大切にし、精いっぱい生きようとする意欲を養う。

(4) 展 開

学 習 活 動	主な発問と予想される子どもの意識	指導上の留意点
1 ビデオを見た感想を思い出 し、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ○院内学級で勉強している女の子のビデオを見ましたが、どんなところが心に残っていますか。 ・つらい治療に耐えている強い人だ。 ・病院でも勉強をしているのに驚いた。 ・家族も一生懸命看病していて大変。 	<ul style="list-style-type: none"> ・院内学級や治療をしているところの写真を用意して、内容が想起しやすいようにし、本時のねらいとする価値にかかわる意識をもたせる。
2 資料を読み、話し合う。 ・由貴奈ちゃんの詩について ・「いじめが消えた」ということから	<ul style="list-style-type: none"> ○「命」の詩を読んでどんなことを考えましたか。 ・命は、電池みたいに置き換えられないから大切にしなければいけない。 ・自分も精いっぱい生きよう。 ○この詩には由貴奈ちゃんのどんな思いが込められているでしょう。 ・自分も死ぬかもしれないから怖い。 ・限りあるからこそ命を大切にしよう。 ・命を無駄にしてもらいたくない。 ○由貴奈ちゃんは、どんな気持ちで「せい いっぱい生きよう」と書いたのでしょうか。 ・つらくても命が続く限りがんばろう。 ・亡くなった友達の分まで生きよう。 ・自分の命を大切に、毎日自分らしく生きていきたい。 ○いじめが起こっていた学級の子どもたちは、由貴奈ちゃんの詩からどんなことに気づき、変わったのでしょうか。 ・みんな大切な命をもっているのだから周りの人も傷つけてはいけない。 ・由貴奈ちゃんの思いを大事にして、一生懸命生きよう。 ・いじめをやめ、よりよい生き方をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の思いに共感しやすいように詩の全文を掲示したり、由貴奈ちゃんの写真を用意したりする。 ・つらい闘病生活の中で命について深く考えるようになった由貴奈ちゃんの気持ちに共感させる。 ・詩の中の短い言葉の中に込められた生きることへの切実な思いに気付かせ、命の大切さについて考えさせる。 ・由貴奈ちゃんの「死」を受け止め、その思いに応えいじめをなくそうとした子どもたちの心の変容をとらえさせる。
3 自分の生活を振り返って考 える。	<ul style="list-style-type: none"> ○「私は命が疲れたと言うまでせい いっぱい生きよう」という言葉からあなたは、どんなことを考えましたか。また、これからどう生活していきたいと思えますか。 ・今、元気であることに感謝し、一日一日を一生懸命生きたい。 ・命は、本当にかげがえのないものだからどんなことがあっても大切にしたい。 ・自分も周りの人の命ももっと大切に して、支え合って生きていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに書かせ、自分を見つめさせることによって全ての命が輝く生き方をしようという意欲が高められるようにする。
4 教師の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○「命いっぱい生きる」ということについて話をします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思いを込めて話すことで、深く心に残るようにする。

(5) 評価の観点

- ・「命いっぱい生きる」ということは、自分も他人も大切にすることについて気付いたか。
- ・「命」には限りがあるからこそ、精いっぱい生きなければいけないという意欲がもてたか。